

地震工学委員会

平成 23 年度 第 1 回（通算第 31 回）委員総会 議事録（案）

I 日時：平成 23 年 4 月 25 日（月） 14:00～17:00

II 場所：土木学会講堂

III 委員会設立の確認

委員総数 116 名に対して、1/2 以上にあたる 86 名が参加（出席 51 名、委任状 35 名）し、総会として成立することが確認された。

IV 配付資料

資料番号なし	平成 23 年度 第 1 回定例委員総会（通算第 31 回）議事次第
資料 31-1	平成 22 年度 第 2 回（通算第 30 回）委員総会議事録（案）
資料 31-2-1	平成 23 年度 地震工学委員会 委員名簿（案）
資料 31-2-2	平成 23 年度 地震工学委員会 顧問推薦者
資料 31-2-3	平成 23 年度 地震工学委員会 新任委員
資料 31-2-4	平成 23 年度 地震工学委員会 正副委員長および運営幹事（案）

（平成 22 年度活動報告）

資料 31-3-1	運営幹事会
資料 31-3-1～20	各小委員会
資料 31-4	平成 22 年度予算執行収支報告
資料 31-5	第 31 回地震工学研究発表会の開催について

（震災関連討議資料）

資料 31-6-1	東日本大震災にかかわるこれまでの学会の動き
資料 31-6-2	東日本大震災特別委員会
資料 31-6-3	土木学会長・地盤工学会長・日本都市計画学会会長 共同緊急声明
資料 31-6-4	東北関東（東日本）大震災学協会連絡会の役割と組織・体制（案）

（席上配布）

資料番号なし	第 4 回 日本ーギリシャ耐震設計に関わるワークショップ案内パンフ
資料番号なし	東日本大震災「津波避難の実態調査」提案書（案）

V 議事

1. 開催挨拶（当麻前委員長）

➤ 当麻前委員長から、以下の旨の開会挨拶が行われた。

新たな委員長の下、今後の委員会の活動計画や予算関係の審議を深めていく必要がある時期に、

東北地方太平洋沖地震が発生した。本地震に対する今後の対応等に関して、慌ただしい状況ではあるが、原点に立ち戻り地震工学委員会の活動として何をすべきか議論を深めたい。

2. 総会議長選出（秋山幹事長）

- ・ 委員からの総会議長の立候補がなかったため、事務局から議事 3.～8.（平成 22 年度の活動状況報告）については当麻前委員長を、議事 9.～10.（震災を踏まえた今後の活動計画）については小長井委員長を推薦し、承認された。

3. 前回議事録（案）の確認（秋山幹事長）

- ・ 平成 22 年度の各小委員会活動報告の主なトレース、地震工学研究発表会・地震工学論文集の運営方針のトレースを行い、前回議事録（案）が承認された。

4. 平成 23 年度 委員名簿の確認

- ・ 委員名簿（案）の紹介がなされ、承認された。

5. 副委員長、運営幹事の選出、顧問・新任委員の紹介

- ・ 資料 31-2-2 に示す委員および竹内幹雄委員を顧問推薦者とする提案を行い、委員会の総意をもって承認された。なお、今後は前年度の 4 月 1 日～3 月 31 日までに 65 歳以上となられた委員を顧問として推薦する提案について、委員会の総意をもって承認された。
- ・ 資料 31-2-3 により、新任委員の紹介がなされた。
- ・ 資料 31-2-4 に示す、平成 23 年度 地震工学委員会 正副委員長および運営幹事（案）の提案がなされ、委員会の総意をもって承認された。

6. 平成 22 年度活動報告

- ・ 当麻議長より、今後の地震工学委員会の活動に関する議論の時間を確保するため、運営幹事会・活動を終了する小委員会からの活動報告を行い、活動を継続する小委員会については資料確認のうえ討議を行うよう提案があり承認された。運営幹事会を代表して秋山幹事長から、活動を終了する各小委員会の代表者から、平成 22 年度の活動報告について説明がなされた。
- ・ 運営幹事会（秋山幹事長）
平成 22 年度活動報告および平成 23 年度活動計画が報告された。なお小長井委員長より、平成 23 年度活動計画については、地震工学委員会の活動方針の議論に応じて臨機応変に変更する予定である旨の説明がなされた。
- ・ 構造物と構造要素の耐震性検証のための実験技術の体系化に関する小委員会（豊岡幹事）
小委員会の成果として、構造実験技術における相似則の解説資料を HP 上に公開する旨の報告がなされた。
- ・ 市民の視点で地震防災を考える小委員会（田中委員長）
自治体（行政）・住民・学会が共通の場で議論できる WS を中心に活動を行い、成果として WS 議事録と報告書を HP 上に公開する旨の報告がなされた。また、WS を継続して開催可能なように、自治体（行政）・住民に対しての窓口を「防災技術普及小委員会」に設け、WS の活動を継続していく旨が説明された。

- ・ 性能を考慮した道路盛土の耐震設計・耐震補強に関する研究小委員会（代理委員）
成果として、平成 23 年度土木学会全国大会にて研究討論会を行う予定であり、研究討論会内容を含んだ小委員会の研究成果を HP 上に公開する旨の報告がなされた。
- ・ 免震・制震小委員会（豊岡幹事）
東北地方太平洋沖地震を踏まえた、成果出版物の原稿修正を進めている状況である。なお、成果出版物は、『免震・制震』をこれから学ばれる方、一般の読者層に絞った内容である旨の報告がなされた。
- ・ 地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会（大塚委員長）
小委員会の成果として、ガイドラインを平成 23 年 8 月に出版予定であり、平成 23 年度の秋以降に講習会を実施する旨の報告がなされた。
- ・ 相互連関を考慮したライフライン減災対策に関する研究小委員会（庄司幹事長）
小委員会として、合計 2 回のシンポジウムを開催し論文集・講演集を発行した旨、および本活動を継続発展させ、ライフラインの地震時相互連関を考慮した都市機能防護戦略に関する研究小委員会にて研究を深度化していく旨の報告がなされた。
- ・ 地震リスクマネジメントと事業継続性に関する小委員会（吉川委員長）
シンポジウム（参加者 59 名）および研究討論会（参加者 100 名余）を開催し、当初計画した活動を完了した旨の報告がなされた。また、シンポジウム報告書・講演論文集の在庫があるため、購入懇願のアナウンスがなされた。

－質疑－

- ・ 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会に対し、仙台市沿岸の浄化センター被災の復旧に関して、下部：土木 上部：建築と分離されて検討しているようであるが、建築関係の専門家も小委員会にメンバーとして迎えて議論を深めるべきではないか。（竹内顧問）
→ 震災を受けて発足した津波特定委員会との役割分担を考慮し検討する必要がある。本質問に対しては、今後の地震工学委員会のあり方での議論としたい。（当麻議長）
- ・ 市民の視点で地震防災を考える小委員会に対し、成果物として WS の活動報告書のみではなく、他に工夫した形で残すことができるものはないか検討されたか。（川島委員）
→ 自治体（行政）を議論の場に呼ぶことが困難な状況であった。本状況を踏まえると、活動報告書程度が小委員会成果物として適切と判断した。

7. 平成 22 年度予算執行収支報告

- ・ 秋山幹事長より、各小委員会の活動経費の見直しを上期・下期で実施しているものの執行状況が縮小傾向となる点、総会における PDF 事前送付による資料印刷費の縮減のため、約 33 万円の予算があまった点が報告された。

8. 地震工学研究発表会・地震工学論文集について

- ・ 東北地方太平洋沖地震を受けて日本自然災害学会と講演会等の共同イベント等についての議論は行われているか。（小長井委員長）

- これまでは議論を行っていないが、開催準備会にて検討を進めることとしたい。
 - ・地震工学研究発表会の主催機関、および日本自然災害学会の位置付けについて明確にされたい。
(川島委員)
 - 地震工学研究発表会の主催は土木学会であり、日本自然災害学会は同時開催という位置付けとなる。(清野副委員長)
 - ・今後の地震工学論文集(土木学会論文集特別号)の論文採択基準は、土木学会論文集の論文採択基準と同様であるか。(川島委員)
 - 地震工学論文集の採択基準にて論文査読を実施する予定である。(清野副委員長)
 - ・費用について、論文が採択されない場合の扱いについて明確にされたい。(後藤委員)
 - 検討する。(清野副委員長)
- 土木学会と日本自然災害学会の2つの独立した会議が共同開催されるという理解だが、それぞれの主催、共催などの位置づけを再確認する。併せて費用についての改善案を再提案し、本日提案した開催期日・場所にて地震工学研究発表会を開催することをこの場の合意としたい。
(当麻議長)

9. 震災関連討議

(小長井委員長挨拶)

- ・地震工学委員会は、低予算でこれだけの活発な小委員会活動を実施している点を心強く感じている、本震災を受けて今後の活動の方向性を本総会の議論を通じて定めていきたい旨の挨拶がなされた。

(東日本大震災にかかわるこれまでの学会の動き)

- ・資料 31-6-1, 資料 31-6-2 により、小長井議長から震災発生から本日に至るまでの学会の動向に関する説明がなされた。土木学会では調査研究部門の委員会の委員長をメンバーとする東日本大震災特別委員会の発足があり、タスクフォースが実働部隊として山本次期会長を座長として活動を展開してきた。この特別委員会の下に分野横断型の特定テーマ委員会を置くことも同意され、既に津波、液状化、安全、地域基盤再構築、復興施行技術などの委員会が活動を開始している。また他学会を取り込んだ調査・検討の動きとして地震工学委員会・被害調査小委員会(川島委員長)が地盤工学会、日本地震工学会、日本機械学会、建築学会、地震学会との連絡会活動をスタートさせている。また学術会議の傘の下で20学会の連携の動きも進んでいる。
- ・川島委員より、6学会連絡会と被害調査の経緯に関する説明がなされた。また検討している以下の課題についての説明があった。
 - 報告会のあり方(他分野と連携した国内向けのシンポジウム、国際的なシンポジウム)
 - 報告書のまとめ方
 - 国際学会からの調査依頼に関する対応
 - 他学会との情報交換システムの構築
- ・富田幹事より、津波特定テーマ委員会の活動経緯(2011/4/20 キックオフ)と委員会メンバー構成、活動内容、今後の展望に関する説明がなされた。

(今後の地震工学委員会の活動方針に関する議論)

- ・ 小長井議長より、地震工学委員会の今後の活動方針として、以下の方針が提案された。
 - (不急な活動より) 今すぐ実施しなければならない活動を優先的に行う。
- ・ 当麻前委員長より、地震工学委員会の使命は以下の点である旨の発言がなされた。
 - 正確な情報の発信
 - 専門家を被災地に派遣し、復旧支援活動を行う等の人的貢献
 - 被災状況を踏まえた新たな課題の抽出
- ・ 塩井顧問より、液状化発生のメカニズムを学会として発信、またハザードマップを提案してはどうかとの提案があった。
- ・ 竹内顧問より、各特定テーマ委員会が立ち上げられ効率的に活動を進めていくことは理解できるが、全体としてどのような目標に向かって活動していくかの青写真が描かれなければ、各人の役割が不明となる旨の発言がなされた。
- ・ 大塚委員より、地震工学委員会はこれまで大地震や震災にかんする調査・記録は残してきているが、社会に対するリアルタイムな発言・発信が不足している旨、各委員が社会に対して積極的に情報を発信していくような姿勢があっても良い旨の発言がなされた。
- ・ 当麻前委員長より、土木学会原子力土木委員会の動きに関して、電力会社が被災中という状況もあり、学術的対応の協力が得られない状況のため、今後の状況を見極めて活動を開始していく旨の発言がなされた。
- ・ 木全委員より、地震動の評価に関する課題・津波に関する課題に対して、地震工学委員会としてどのような貢献できるのか不明ではないかとの発言がなされた。
- ・ 竹内顧問より、仙台の下水終末処理場が震災により機能しなくなり、海へ垂れ流すことを余儀なくされている状況から、海の富栄養化が課題となっている点を踏まえ、大所高所の議論も良いが、市民生活に根ざした活動を考えるべき旨の発言があった。
- ・ 大野委員より、地震工学委員会の活動としては小委員会活動の積上げが最も重要である旨の発言がなされた。
- ・ 清野副委員長より、地震工学委員会の活動として、綿密な被害調査、それに基づく現象のメカニズム把握、よって再発防止対策はどうあるべきかといった提言を行える小委員会活動を確実に実施しすることが重要である旨の発言がなされた。
- ・ 川島委員より、今後、研究者や事業者にとってアーカイブとして重要となる報告書の作成方針についての発言がなされた。
- ・ 後藤顧問より、席上配布資料『東日本大震災「津波避難の実態調査」提案書(案)』に基づいて、体制がどうあれ、学会がどうあれ、震災被害を考慮する上での根本を把握すべく実行すべきテーマなので、有志による活動を実施する決意の旨の発言がなされた。
- ・ 小長井議長より、今後の進め方について以下の幹事団案が提案された。
 - 小委員会活動に関する提案を今後1ヶ月中に各委員に考えていただく。
 - 5月末を目処に拡大運営幹事会を開催し、小委員会活動テーマを議論し方向性を定める。
 - 以上を踏まえ、報告書の作成も見据えた方針等について議論していただく。上記3点について、委員会の総意をもって承認された。

(今後の進め方に対するコメント)

- ・ 大野委員より、災害映像に関するポータルサイトを設立していくような活動も他学会では実施されている旨の発言がなされた。
- ・ 川島委員より、平成 22 年度に多くの小委員会活動が終了している点を踏まえ、震災対応だけではなく、これまでの興味ある研究テーマに根ざした従来型の小委員会の設立に関しても柔軟に対応する要望の発言がなされた。
- ・ 当麻前委員長より、土木学会から各委員会に対し、各委員会が発行している規格・基準類の見直しが発生するか否かについての問い合わせがある旨についての発言がなされた。

10. 閉会挨拶（小長井委員長）

- ・ 大変な状況ではあるが、各委員のご協力をいただき、地震工学委員会の活動を確実に実施していきたい旨の閉会挨拶がなされた。

（作成者：藤原）